

中世の支配者たち

この辺りの支配者として初めて明確に登場するのは首藤氏です。首藤氏は平安末期に山内荘を皇室に寄進することによりその実権を握り、姓も山内氏に変えました。山内荘は大船行政区域と横浜市栄区に戸塚区の東半分と港南区の一部を加えた広大な荘園で、北は東戸塚駅の辺りから南は小袋谷や山ノ内を含む巨福礼郷まででその中心は栄区本郷だったそうです。しかし、山内氏は父祖が源氏の郎党だったのに頼朝の挙兵に応じず平氏に加担した為、山内荘を没収されて土肥氏に預けられました。また土肥氏は一二三年の和田合戦で和田方だったので滅ぼされ、山内荘の領主は北条氏となり鎌倉時代の終りまで支配しました。北条氏は多くの寺院を建立して山内荘の一部を寺院領にしました。

室町時代には、鎌倉公方の足利氏が直接支配しましたが幕府に反旗を翻して追放されました。関東管領の上杉氏の支配になった後、山内上杉氏と扇谷上杉氏との争いが起こりそれに乗じた北条早雲が伊豆から相模に進出して、一五一二年には鎌倉に入り玉縄城を築きました。

北条早雲が一五一九年に三男の幻庵に与えた知行地の中に小袋谷の名があります。北条幻庵は、長命で全ての当主に仕えて北条氏の影の宰相と呼ばれ忍者風魔一族を率いていたとも言われています。幻庵が死んで八ヵ月後、豊臣秀吉軍の攻撃により北条氏は滅ぼされました。